

中1国語③

氏名 _____ 月 _____ 日 _____

■ 中村さんは、畳について興味を持ち、文章にまとめました。次の「中村さんがまとめた文章」と、中村さんが文章をまとめるために作った「カードの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【中村さんがまとめた文章】

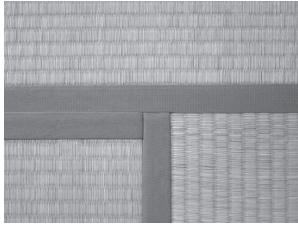
畳 知ってるようで知らないもの

畳とはどういうものか

畳の材料といえませんが「いぐさ」を思いつくが、実際は主に畳床(芯の部分)、畳表(表面の部分)、畳縁(へりの部分)の三つの部分から成っている。

畳床は、昔は稲わらを束ねて作っていたが、現在ではポリスチレンフォームなど工業製品を使ったものも多い。

畳表は、綿や麻の糸にいぐさを織りこんでつくられる。いぐさの質や色などによって、等級がつけられている。また、国産や中国産など産地



▲畳表と畳縁
布の部分を覆う

でも値段が大さく異なる。畳縁は、畳のふちを覆う部分

分で、素材やデザインによってさまざまなものがある。

多機能の畳

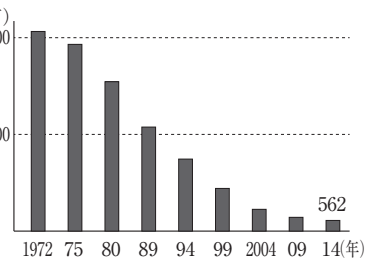
日本では現存する最古の畳は奈良時代のもと言われており、現在の形に近くなったのは平安時代とされている。

このように古代から現在まで畳が日本で用いられてきたのは、その特性にある。

畳は断熱性と保湿性に優れている。湿気が多い時期には、畳一枚あたりで500ccも

の水分を吸収することができ、乾燥した時期には、畳が持つ水分を放出することができ。このように、湿度の調整を行ってくれる畳は、夏に多湿となり冬に乾燥する日本の気候にとっても適した働きをしてくれる。また、いぐさや

稲わらは部屋の空気を浄化し、その香りは、森林浴のようなりラックス効果もあるといわれている。さらに、音を吸収することから、遮音効果もある。



▲熊本県のいぐさ農家戸数の推移 (農林水産省 2015年「作物統計」による。)

このような高機能の特性によって、畳は長い間用いられてきたのである。

日本のいぐさ生産の九割以上が熊本県で生産されているが、年々生産量は減少し、生産農家も減少している。

その主な原因は、安い中国産の畳が大量に輸入されているからである。また、生活の洋風化によって、日本の住宅から和室が消えていること、手入れを怠るとダニやカビの温床と

見直される畳

多機能なことに加え、洋風のインテリアに合うデザインの畳や、ダニやカビを防止する機能を持たせた畳が見られるようになったことなどから、畳を見直す動きも進んでおり、畳の需要が回復傾向にあるとも言われている。

長い間受け継がれた文化であり、やはり素足に感じる畳の感触は心地よい。数々の魅力のある畳は、形は変わるかもしれないが、今後も受け継がれていくことだろう。

▲洋風建築に畳を使用している和室



【カードの一部】

畳の特性

- 畳にはどのような長所があるのか。
- ・断熱性と保湿性に優れている。
- ・湿気を吸収する。(1枚あたり500cc)
- ・乾燥した時期に水分を放出する。
- ・部屋の空気を浄化する。
- ・香りにリラックス効果がある。
- ・遮音効果がある。

近年の畳のくふう

○最近はどのような畳が作られているか。

Blank space for writing answers to the question about recent improvements in tatami.

